

## 会議等開催結果報告書

1. 会議名	令和7年度(2025)第1回出雲市介護保険運営協議会		
2. 開催日時	令和7年(2025)7月24日 木曜日 14:00～16:00		
3. 開催場所	出雲市役所 本庁6階 全員協議会室		
4. 出席者	<p>&lt;委員&gt;</p> <p>浅野 紳 委員、飯國 吉子 委員、石飛 将泰委員、石橋 陽子委員、磯田 洋平 委員、伊藤 智子 委員、糸賀 俊樹委員、岩崎 陽 委員、大錦 清文 委員、奥山 真由美委員、嘉村 正徳委員、川谷 吉正委員、熊谷 美和子委員、黒松 基子 委員、小林 祥也委員、佐藤美也子委員、上代 真弓 委員、須谷 生男 委員、杉谷 亮 委員、高橋 幸男委員、名越 究 委員、濱村 美紀 委員、布施 礼子委員</p> <p>(50音順)(23名)</p> <p>欠席：高橋 幸男委員(1名)</p> <p>&lt;傍聴人&gt; 0名</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>健康福祉部長、高齢者福祉課長、医療介護連携課長 ほか</p>		
5. 会議等において検討された事項等	<p>1 健康福祉部長あいさつ</p> <p>2 委員紹介、会長、副会長選出</p> <p>3 新会長、副会長あいさつ</p> <p>4 議事 (無し)</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 第9期計画に係る令和6年度成果指標の確定評価について <span style="float: right;">資料1</span></p> <p>(2) 令和6年度の実績について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス種類別給付実績について <span style="float: right;">資料2</span></li> <li>・地域支援事業実績について <span style="float: right;">資料3</span></li> <li>・高齢者福祉事業について <span style="float: right;">資料4</span></li> </ul> <p>(3) 新たな介護人材確保・定着事業の実施状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問サービス事業所支援、外国人介護人材受入支援の拡充 <span style="float: right;">資料5</span></li> <li>・通所サービス事業所支援に係る実証実験の報告、今後の対応 <span style="float: right;">資料6</span></li> </ul> <p>(4) 医療介護連携に関する新たな取組について <span style="float: right;">資料7</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なサービス促進事業について</li> <li>・遠隔医療実証について</li> <li>・AIを活用した高齢者のモニタリング電話サービス実証について</li> </ul> <p>(5) 第10期計画に係る各種調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防日常生活圏域ニーズ調査 <span style="float: right;">資料8</span></li> <li>・在宅介護実態調査 <span style="float: right;">資料9</span></li> <li>・高齢者施設向けアンケート <span style="float: right;">資料10</span></li> </ul>		
6. 担当部署	健康福祉部高齢者福祉課、医療介護連携課	連絡先	0853-21-6212
7. 会議録	別添のとおり		

## 令和7年度(2025) 第1回出雲市介護保険運営協議会会議録(要旨)

1. 議事	(無し)
2. 報告事項	
事務局	(1) <u>第9期計画に係る令和6年度成果指標の確定評価について</u> <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span>
会長	介護給付費通知を利用者の混乱防止や郵券代の値上がりを理由に中止したようだが、この内容で決定しているのか。
事務局	令和7年度から介護給付費通知は中止として決定している。
事務局	(2) 令和6年度の実績について
	・サービス種類別給付実績について <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span>
	・地域支援事業実績について <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span>
事務局	・高齢者福祉事業について <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span>
	(3) 新たな介護人材確保・定着事業の実施状況について
	・訪問サービス事業所支援、外国人介護人材受入支援の拡充 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">資料5</span>
	・通所サービス事業所支援に係る実証実験の報告、今後の対応 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">資料6</span>
A 委員	共同送迎は難しい事業だと感じていた。この実証実験を行うにあたって全国でモデルケースがあるのか。そのモデル自治体は困難をどのように乗り越えているのか。
事務局	全国で初めて共同送迎を開始したのは香川県三豊市だが、このケースは社会福祉協議会が共同送迎実施の運営団体として決定したうえで事業を実施しており、出雲市とは異なっている。もう一つは、滋賀県野洲市もNPO法人が運営団体と決定した上でスタートしている。全国的にはこの2市のみ稼働している。出雲市は運営団体が定まっていないままスタートした点が2市とは異なる。なお、共同送迎を行っている2市において、運営団体の業務及び経営的負担が大きいと聞いている。
副会長	共同送迎の目的について、送迎負担の軽減は分かるが、離職者の減少に寄与するのか。モデルケースの三豊市では、実際に離職者が減少しているという実績があるのか。
事務局	デイサービスは送迎業務があるため、運転に自信が無い人は就職する事を躊躇する場合があると聞いている。中山間地等では狭い道や運転が難しい場所があり、利用者に乗せて運転する事に責任とプレッシャーを感じる人がいるようである。三豊市等の実績の具体的数値は持ち合わせていないが、少なからず就職増や離職軽減の効果はあると考えている。
B 委員	共同送迎について、うまくいかなかった原因は運転手不足が主要因なのか、それとも別の要因があるのか。
事務局	一番の原因は、運営団体がいない点である。各介護事業所のドライバーの有効活用が

	<p>目的である。事業所が共同で送迎する事で、少ないドライバーで効率良く送迎できるメリットがある。</p>
事務局	<p><u>(4) 医療介護連携に関する新たな取組について</u> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料7</span></p>
	<p><u>(5) 第10期計画に係る各種調査について</u></p>
	<p>・介護予防日常生活圏域ニーズ調査 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料8</span></p>
	<p>・在宅介護実態調査 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料9</span></p>
	<p>・高齢者施設向けアンケート <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料10</span></p>
C委員	<p>A Iについて、3点質問したい。</p> <p>①A Iの電話に置き換えるのは月1～2回の部分だけなのか。3カ月毎の訪問は今までどおりか。</p> <p>②A Iで置き換える守備範囲はどこまでか。更に広げていく予定があるのか。例えば情報から課題を分析してケアプラン作成するところまで広げるのか。あるいは、あんしん支援センターとケアマネとの連携にも影響するのかどうか。</p> <p>③サンプルの音声で、個人情報に関わる事をA Iが喋っていたが、どういう仕組みなのか。</p>
事務局	<p>①実証は、総合事業の対象者への毎月の電話についての置き換えの可否を実証する。訪問を電話に置き換えはできない。置き換えできなくとも情報収集の補助ツールとしての活用は可能である。</p> <p>②A Iの守備範囲については、既にA Iでケアプラン作成ができるものがあるので、それと連携するか、機能拡張するかはあるが、聞き取りからケアプラン作成まで一連の流れでできれば良いと思う。ただ、技術的な課題も多いと思われ、今後検証が必要。居宅介護支援事業所でも活用できると良いが、まずは高齢者あんしん支援センター内の業務で実施する。</p> <p>③過去5回分の利用者が答えた内容と利用者のケアプランをA Iが覚えているため、その利用者の介護サービス、趣味等を学習したうえで、電話にて会話を組み立てながらモニタリングを行う仕組みになっている。</p>
C委員	<p>介護人材不足を補うツールとしてA Iに期待している。居宅介護支援事業所でも活用できるように取り組んでいきたいと考えている。まずは、あんしん支援センターでの実証実験の取り組みに期待している。</p>
副会長	<p>遠隔医療実証の資料で、役割分担の三角形の図について、診療所や病院、医師会は関わらなくてよいのか。</p>
事務局	<p>出雲市の中には出雲市立総合医療センターも含まれており、その医療リソースの活用も視野に入れて対応していきたい。実証を進めるには、地域で医療を提供している診療所や医師会の理解は必要であり、個別に調整を図りながら慎重に進めている。</p>